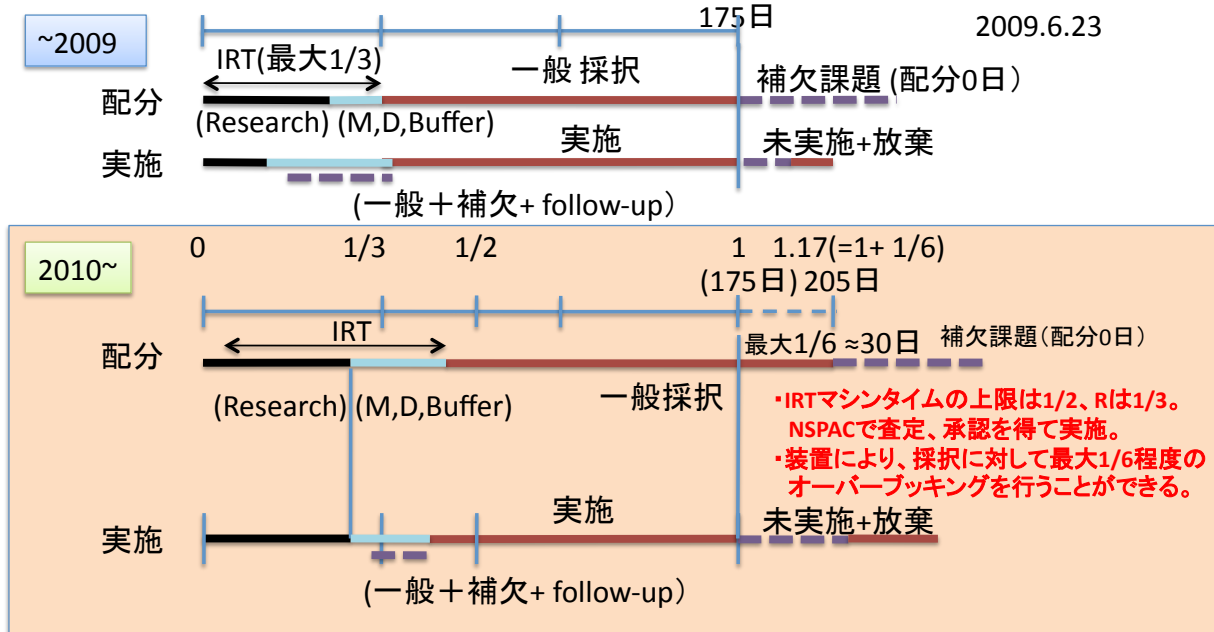


新マシンタイム制度



説明: 現行では補欠課題の実施やマシンタイム調整をしているため、IRTの研究部分(R)が担保されていない。

改革案: (1)IRTのR部分を確保してバッファータイムに流用しない、(2)採択を最大1/6程度多めとし、希望順・先着順に実施し、マシンタイムが埋まらない場合には補欠課題を入れる、(3)年度末に未実施の一般採択課題があっても、IRTの未実施R部分を優先して使用してもよい。

IRT課題

2009年6月21日のIRTマシンタイム検討委員会にて、IRTマシンタイムの上限を一律1/2とすることが了承されました。その内容を以下に示します。

【申請】

- IRTは年1回、IRT計画書を申請する。
申請書には、IRTマシンタイムの内訳を明記する。IRTマシンタイムとは、(1)装置維持・高度化(M&D)、(2)研究・人材育成(R)、(3)マシンタイム調整用のバッファータイム(B)などを含む。
IRTマシンタイムは全ビームタイムの1/2以下、R部分は全ビームタイムの1/3以下とする。

【審査】

- IRT代表者はNSPACにてIRTマシンタイムの内訳を説明し、承認をうける。
(スライド1~2枚程度で説明、質疑応答の後、承認を得る)

【実施】

- IRTはホームページなどを介して、積極的に共同利用の年間予定、進捗状況、などを公表し、**採択課題**、IRT課題を実施する。必要に応じて、**補欠課題**を実施する。
- IRTは申請時のマシンタイムのうち、バッファータイムを除くマシンタイム(リサーチタイム)を使用する権利を有する。

【成果報告・公表】

- 装置ホームページにて成果の公表をおこなう。
- 年1回程度、IRTの成果発表を行う。
(物性研短期研究会などを企画する)

一般課題

2009年6月21日のIRTマシンタイム検討委員会にて、一般課題と補欠課題（従来の課題採択）に対する取り扱いが改訂されました。その内容を以下に示します。

【申請】

1. 年一回、課題の申請を受け付ける。

【審査】

2. NSPACにて審査する。最大、全マシンタイムの1/6程度の過剰採択を認める。
3. 必要に応じてマシンタイムを配分しない課題を採択する。これを**補欠課題**（従来の課題採択）と呼ぶ。補欠課題に対しては旅費も充当しない。

【実施】

4. IRTはホームページなどを介して、積極的に共同利用の年間予定、進捗状況、などを公表し、**採択課題**、IRT課題を実施する。
5. マシンタイムに空白が出た場合など、必要に応じて**補欠課題**を実施する。

【成果報告・公表】

6. 研究終了後、課題代表者は共同利用データベースに成果報告書（実験レポート、出版論文情報、学位論文など）を提出する。